

## 20～30代の若者世代職員への意見聴取

対象：20～30代の若者世代の職員 10名（男性：5名、女性5名）

**①大津町役場の職場環境の改善等に係る提案**

役場で働くにあたり、プライベート（自身や家族との生活）の充実も図るうえで、「もっとこんな制度があったらいいな」、「こんな風になればいいな」など提案がありましたらご記入ください。

**【子育て】**

- 職場内に託児所など一時的に子どもを預けられる場所の設置  
→昼休みに子どもごはんを食べることができる、病気やケガなどの緊急時にすぐに対応しやすい、送迎時間が短縮できるため通勤時間に影響が出にくい
- 庁舎内託児所の設置
- 保育（授業）参観休暇制度の制定
- 3歳以下の保育料助成制度
- 子の看護休暇を高校生（18歳）まで延長、看護休暇日を増やす

**【育休制度・時短勤務制度】**

- 福岡県古賀市は育休100%を達成しており、手段として勤務時間の選択の導入や職員向けの育休に関する配布資料の拡充を行っています。市に比べて町は職員数が少なく、また部署により勤務時間の選択等の導入は困難かもしれませんが、できる部課では導入することで、職員への意識付けはできると思います。
- 男性職員の時短勤務制度を制定し、通常の給料を支給
- 育休取得時の給料全額支給
- 結婚や出産等のライフイベントについて、「仕事が忙しい」や「異動すれば」等の仕事を要因としてイベントの時期を考慮しなくていいような職場環境にしなければならないと考えます。  
産休・育休は以前に比べて取得しやすくなってきていると思いますが、人員不足で取得を諦めた職員もいます。事務職だけでなく、技師や保育士等のすべての職種で人員が充足することで休暇・休業を取得しやすくなると思います。  
職員の意識改革が最も重要だと思います。すべての職員が自分と自分にとって大切な人を大事にできる職場が理想だと思います。

**【休暇】**

- 週休3日制の導入
- 週休3日制度の導入
- 休暇が使いやすい
- 入庁〇年目はその年度の好きな時に平日3日連続で休みを取らなければならない制度。  
→例えば最初は入庁5年目の方に設定し、入庁10年目、15年目、20年目……など5年おきにこの制度を適用させることで、職員が有休を取りやすい環境を促進する。

## 【勤務時間】

- 定時退庁が基本となるような職場環境づくり（職員不足改善、時間外勤務の軽減）  
人手不足等により、定時退庁するのに気を遣ってしまいます。同じ係の人は残業してるのに自分は早く帰ってしまい心苦しい…など。しかし、結婚や子育てをしていると、やはり妻・母としての家庭での役割もあると思うので、長く残業ができないことが多いのではないかと思います。  
時間外を申請するほどは残らないけど、残業は少しする…といったことも多くあるので、定時退庁できて当たり前になるといいなと思います。
- 時間外勤務が少なくなる
- 労働時間の管理を徹底
- フレックスタイム制の推進  
→交通渋滞の緩和、子どもの送迎時間や学校の活動時間を確保
- フレックスタイム制度の導入
- 時差出勤があれば、（勤務時間の前倒しの場合は）帰宅後の時間に余裕ができ、食育や子供との時間が充実すると思う。今は夕飯は買ってきたものだったり、早寝をさせようと思っても、22時を過ぎてしまう。子供の成長にはよくないのかもと思いながらも毎日のタスクをこなすので精一杯。
- 時差出勤を導入しそれぞれの家庭に合った働き方をする制度

## 【人員配置】

- 時短勤務対象者がいる部署への人員配置（加配的なもの）があるといい。事務量によるものもあるが、単純に1人配置のところに時短勤務が入ると、その係内で全体的に負担が増えるので、そこに対する支援策はないか。  
職員の産休・育休の際の会計年度職員の配置も、フルタイムに対し5.5時間配置なので、負担が大きい。そのあたりの支援策があるといいと思う。…子持ち様みたいな批判も減るのではないかな？

## 【その他】

- 子育て・出産に関する職員研修  
→子育て・出産の経験がないため、おなかにお子さんがある職員に対してこういった配慮をしたらよいか分からず、ご本人に聞きづらいこともあるため、新規採用職員研修の一環などで研修があると嬉しいです。（自分が子育てをする当事者になった時も役立つと思います。）
- テレワークの活用
- ウォームビズの導入

## ②「こどもまんなか大津」実現に向けたこども・若者施策の提案・意見

大津町が「こどもまんなか社会」実現に向けて、取り組んでいくと良いと思うこどもや若者世代に関する事業について、提案や意見がありましたらご記入ください。

### 【子育て】

- 遊具の設置など、子どもの遊び場ができるのはいいことだと思います。屋外だけでなく、屋内でも子どもが遊べるような施設ができるといいと思います。
- 病児・病後児保育施設を利用する際は前日の18時までに予約するように、とされていますが、当日朝から発熱して預けたいという場合も多々あるので、当日予約もできるようにしてほしいです。
- 町内の子育て世代（職員含む）にベビー用品店等で使用できる商品券の配布
- 雨の日でも子どもが遊べる大型児童館の建設
- 給食費無償化
- 大津屋台村を作り、子育て世代がストレス発散できる場を設ける

### 【教育】

- 多言語が学べる授業内容や半導体企業と交流した技術取得特別授業など、大津町でしか経験できない教育プログラムなど魅力的だと思います。

### 【若者】

- 大きな目標があり頑張る若い世代（子どもも含む）の留学を支援する制度
- (教育部) 図書館にカフェを創設。若者が自由に会議や作業ができるフリースペースを設ける。  
参考：都城市立図書館
- (産業振興部) 有名な祭りの誘致。特によさこいは学生団体も多く、老若男女問わず参加できる祭りであり、踊り子や観客による宿泊費や周辺観光施設への利用を促すことができる。  
参考：火の国 YOSAKOI まつりの運営を行う肥後真狗舞
- さまざまな施策について若者が分かりやすいようなPRを行う（SNS）

### 【道路・交通】

- 歩道の拡張  
→ 役場周辺も含め、学校周辺にもかかわらず歩道が狭い箇所があり、車側も歩道を歩く学生たちも危険であるため。
- (総務部) 交通渋滞の緩和と町中をゆっくり楽しんでもらうため、レンタル自転車や電動キックボードなどの導入 参考：Charichari（チャリチャリ）、Luup（ループ）

### 【移住・定住】

- 国土交通省の子育てエコホーム支援事業利用者への町独自の補助金上乘せ（SNS等で当該補助金の上乗せを補助金申請者がPRすることが条件）
- 定住支援の事業。大津町内でも中心部は増加、北部南部は減少していると思うが、ある程度居住地をコントロールするような施策はないか。過疎地の住宅購入支援金とか、リフォーム支援金とか。

また、小学校も学校によってクラス数の差があり、公共施設を有効に活用できていないのではないか。中心部以外に人が増えれば、公共交通機関も充実し、商業施設の進出も増えるのではないか？

- 近年、アパートやマンション等の共同住宅が急増している。比較的若い世代が今後も流入してくると考えられるので、現在行なっている事業を継続する必要があると思います。また、外国人の転入も増加すると考えられるので、公共施設等の説明書きの多言語化や翻訳機器の導入も必要だと思います。